

恋煩い

orange5

体温

不意打ち気味に、優しくされると胸がきゅーってなって泣きそうになる。

それは言葉じゃ伝わらないの。

手を握られるとか抱きしめられるとか、
あたま撫でられるとか背中ぽんぽんされるとか、
そうゆうの。

人のぬくもりに触れたとき、抑えていたものが崩れて溢れ出して止まらないの。

キミが僕の積み木を壊したから...また作るの大変なんだよ。

ズルいよ、気づいてないでしょ、苦しくて泣いてることに。

そうやってキミは優しくするだけで一緒に積み木は立ててくれないんだね。

わかってるよ。

わかってる。

欲望

そこで何するかなんてどうでもいい。
はっきりした目的なんていない。

ただ、あなたと話したかった。
ただ、あなたと並んで歩きたかった。
ただ、あなたの隣にいたかった。
ただ、あなたとふたりでいたかった。

ただ、それだけなんです。

「でも、なんで？」

「好きだから。」

欲ってなくならないよね。
もっと、もっと、って思っちゃうのだもん。

もっと、あなたと話したい。
もっと、あなたと並んで歩きたい。
もっと、あなたの隣にいたい。
もっと、あなたとふたりでいたい。

会えない時間に、期待して待ってる時間に、たくさんの欲が生まれる。
それを限られた時間のなかでぜんぶ望むから失敗する。

そうやって終わった後に後悔するんだ。

なんであの時...ってさ。

頭のなか、それだけでいっぱいになってさ、わけわかんなくなって、開き直って、ため息ついて、最後には欲が生まれるんだ。

「またあなたとふたりでどこかへ行きたいです。」

恋煩い

<http://p.booklog.jp/book/64723>

著者 : orange5

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/orange5/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/64723>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/64723>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブックログ